

## 台風第14号に伴う今後の大雨・災害の見通し（第2報）

日本気象協会は、台風第14号に伴う今後の大雨と災害の見通し（9月16日12時時点）に関する情報を、防災レポートとして発表します。

### ポイント

- ・ 台風第14号は、今後進路を北よりに変え、18日には九州に接近・上陸する可能性がある。
- ・ 九州南部では48時間降水量が800mmを超え、既往最大比150%超の大雨となるおそれがある。また、普段雨が少なく中国地方でも雨量が多くなり、既往最大比150%超となるおそれがある。
- ・ 九州や中国地方では、国管理河川の大きな河川を含め多くの河川で現状の整備水準を超える規模の雨量が予測されており、氾濫が発生するおそれがある。

台風第14号は16日（金）9時現在、日本の南にあり、西へ10km/hの速さで進んでいます。昨日から発達し、中心気圧は950hPa、中心付近の最大風速は45m/sです。このあと北よりに進路を変え、18日（日）頃には九州南部にかなり接近または上陸するおそれがあります。西日本の広い範囲で大雨や暴風に加え、沿岸部では高潮や高波に警戒が必要です。その後、進路を東向きに変えて20日（火）にかけて東日本や北日本に影響する可能性があります。

## JWAアンサンブル雨量予測

予測対象期間 9月18日0時～21日0時

### 48時間雨量の最大値

### 過去最大48時間雨量との比

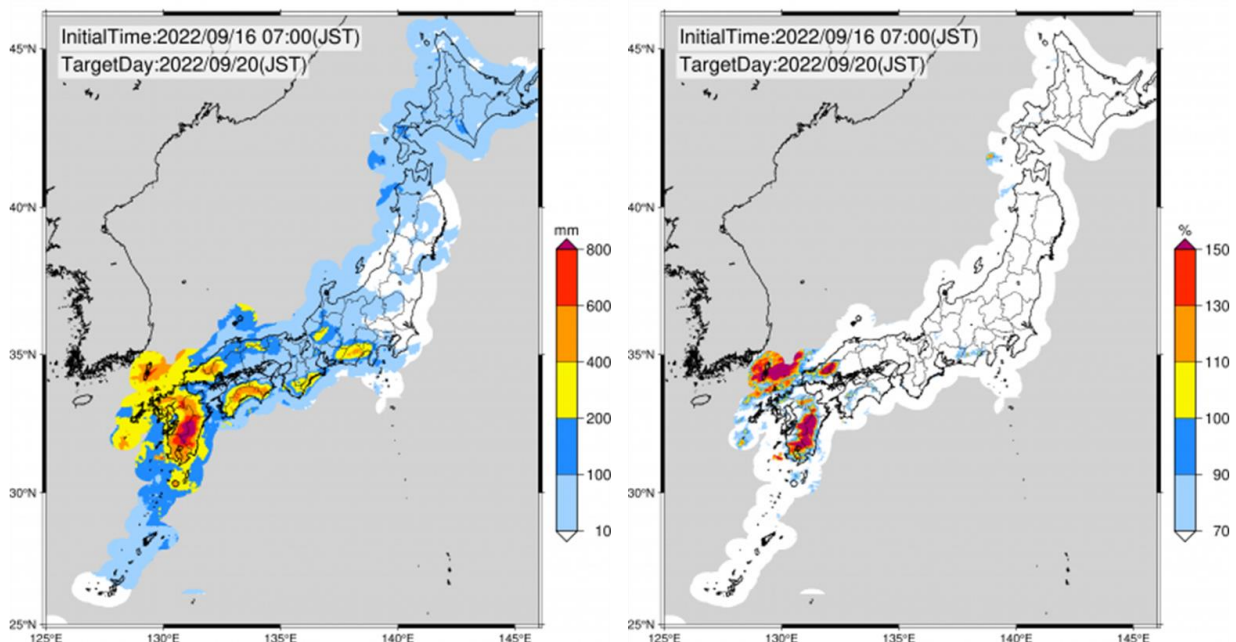


図1 9月18日（日）～20日（火）にかけて予想される48時間雨量最大値と既往最大比。  
（過去最大値の集計期間：2006年5月～2021年12月）

日本気象協会独自の「JWA アンサンブル雨量予測」では、台風第14号の影響により、宮崎県、熊本県、鹿児島県で20日（火）にかけての48時間雨量の最大値が800mmを超えて、既往最大比（※1）150%を上回る可能性があります（※2）。また、台風の進路にあたる九州北部や中国地方でも、20日（火）にかけての48時間雨量の最大値が400mmを超える予測となっています。特に、中国地方は普段から雨が少ない地域でもあるため、既往最大比が150%を超える可能性があります。

日本気象協会と静岡大学牛山素行教授との共同研究の結果（※3）によると、既往最大比150%を超えると犠牲者の発生数が急増する可能性があります、災害発生危険度が極めて高いことから 厳重な警戒が必要です。

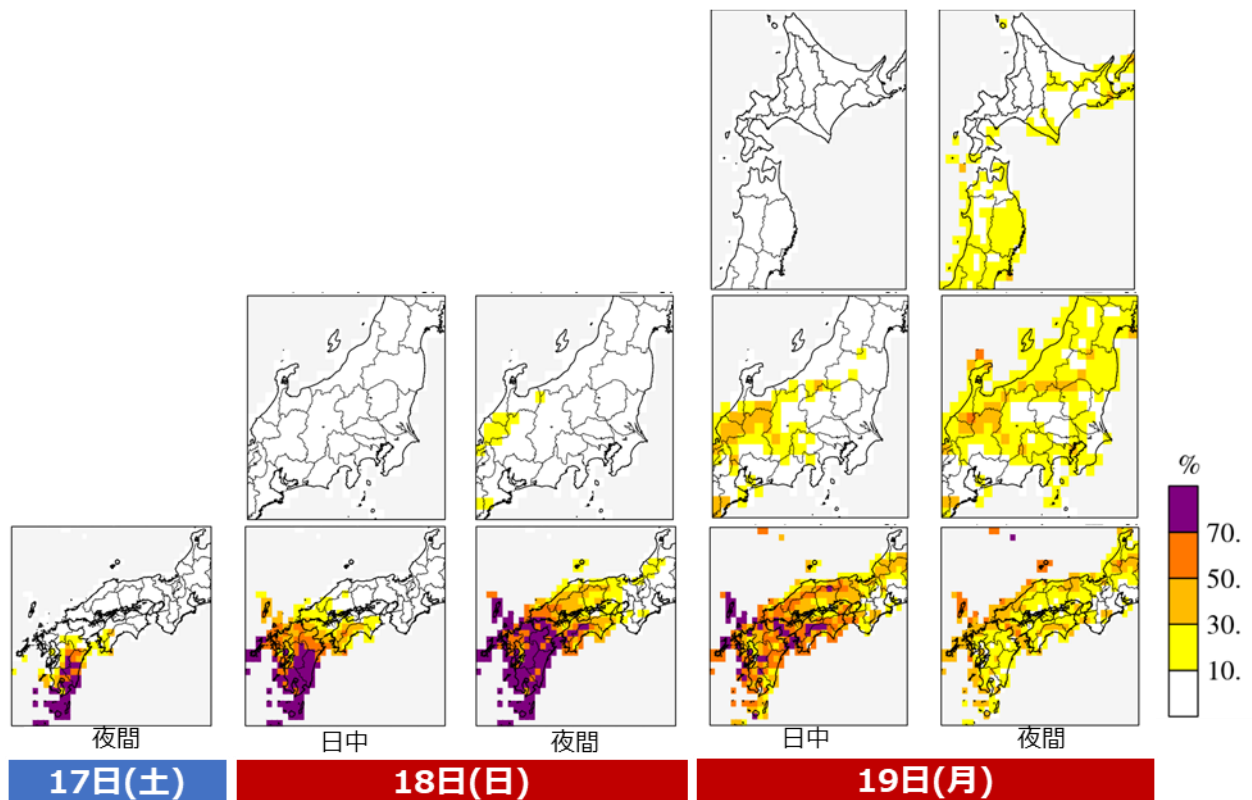
表1は、九州地方、中国地方の国管理河川のうち、河川の流域平均雨量の予測値が計画規模降雨（※4）を超えているものを示したものです。九州南部では18日（日）～19日（月）にかけて、九州北部や中国地方では19日（月）～20日（火）にかけて、国管理河川の大きな河川を含め多くの河川で現状の整備水準を超える規模の雨量が予測されており、氾濫が発生するおそれがあります。

市町村が作成している洪水ハザードマップなどを早いうちに確認し、浸水の可能性や避難する場所・経路等を把握するとともに、避難への備えを行ってください。

表1 予測雨量が「河川整備基本方針における計画規模降雨」を上回る国管理河川

地方名	河川名	計画規模降雨 (河川整備基本方針)		計画規模降雨の 継続時間内雨量予測値 (20日までの最大値)	
		流域平均雨量	継続時間	流域平均雨量	計画降雨比
中国地方	高津川 <small>たかつがわ</small>	353mm	48時間	433mm	123%
九州北部	筑後川 <small>ちくごがわ</small>	521mm	48時間	530mm	102%
九州北部	山国川 <small>やまくにがわ</small>	355mm	48時間	426mm	120%
九州北部	球磨川 <small>くまがわ</small>	261mm	12時間	311mm	119%
九州南部	大淀川 <small>おおよどがわ</small>	458mm	24時間	553mm	121%
九州南部	川内川 <small>せんだいがわ</small>	286mm	12時間	299mm	105%
九州南部	肝属川 <small>きもつきがわ</small>	490mm	48時間	593mm	121%

また、台風接近により暴風にも警戒が必要です。瞬間風速25m/s以上となる確率は、18日（日）を中心に九州地方の広い範囲で70%を超えています。また、四国地方や中国地方でも18日（日）夜～19日（月）日中にかけて、所々で50%を超える確率になっています。暴風への備えは早めに済ませるようにしてください。また、交通機関の乱れも予想されます。連休中はこまめに気象情報や交通情報を確認するようにしてください。



(日中：06時～18時／夜間：18時～翌06時)

図2 瞬間風速 25m/s 以上の風が吹く確率分布。  
(日中：06時～18時／夜間：18時～翌06時)

本情報は2022年9月16日(金)12時時点の予測資料から作成したものです。最新の気象情報をご確認ください。

- ※1 既往最大比とは、解析雨量が1kmメッシュ化された2006年5月以降に観測された雨量の最大値との比のこと
- ※2 既往最大値の集計期間は2006年5月以降のため、2005年台風第14号の大雨は含まれていないことに留意してください。
- ※3 本間基寛，牛山素行：豪雨災害における犠牲者数の推定方法に関する研究，自然災害科学，Vol. 40，特別号，pp. 157-174，2021.
- ※4 計画規模降雨：河川整備の目標とする降雨。この規模の雨が降っても氾濫（はんらん）が発生しないように治水対策が進められている。その降雨量は大雨事例を基に、確率計算により求める方法が一般的で、1/100～1/200 確率降雨量としている。

※日本気象協会の天気予報専門メディア「tenki.jp」では、「警報・注意報」「地震情報」「津波情報」「火山情報」「台風情報」などの防災情報 (<https://tenki.jp/>) を24時間365日提供しています。



片山 勝之（かたやま まさゆき）  
一般財団法人 日本気象協会  
社会・防災事業部 防災マネジメント課  
グループリーダー  
技術士（建設部門：河川、砂防及び海岸・海洋）  
気象予報士

◆◆◆お問い合わせ先◆◆◆

一般企業・自治体の方  
日本気象協会 社会・防災事業部  
TEL：03-5958-8143 MAIL: [eigyuu\\_bosai@jwa.or.jp](mailto:eigyuu_bosai@jwa.or.jp)

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。商品ごとの情報やコンサルティングにつきましても当社までお問い合わせください。